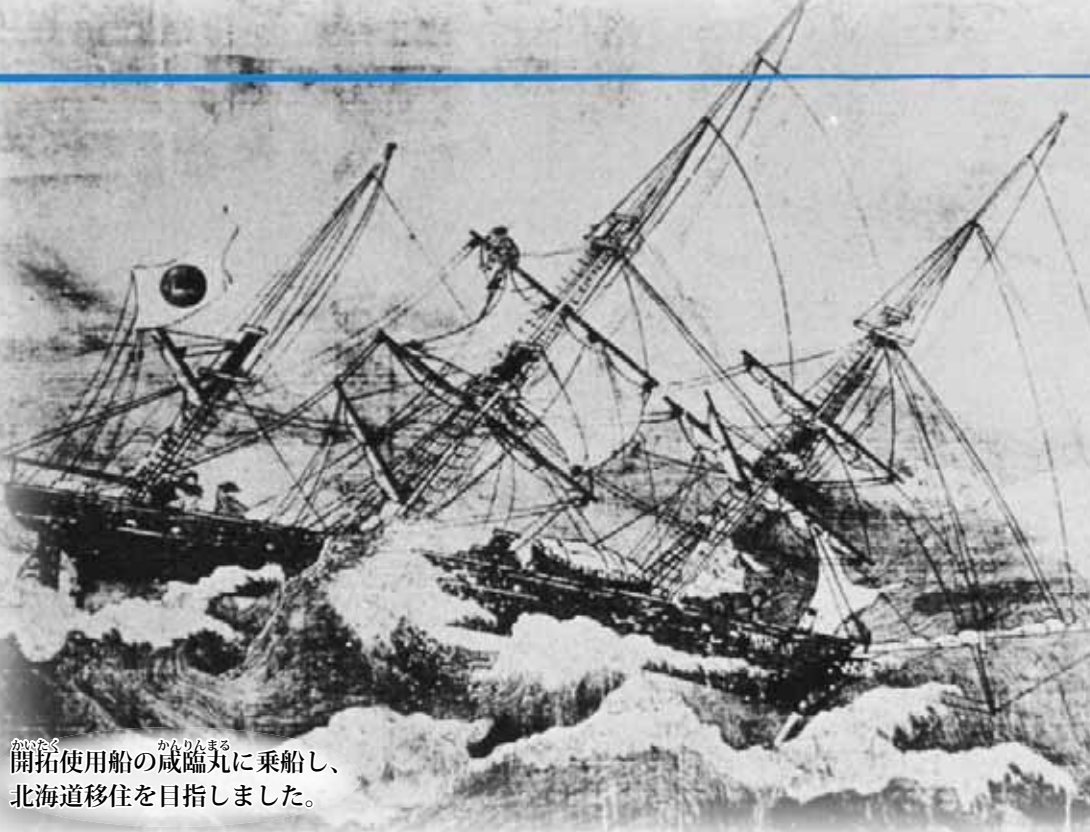


しろいし地名考

仙台藩片倉家の家臣たちがこの地にくわを入れてから、約百三十年の時代が経ち、今や白石区は人口約三十万人の街に発展しました。今月は、先人の開拓の歴史を振り返りながら、白石区の地名の由来についてご紹介いたします。



開拓使用船の咸臨丸に乗船し、北海道移住を目指しました。

白石

白石の歴史は、戊辰戦争に敗れた仙台藩白石領（現在の宮城県白石市）の藩士が、明治四年十一月に望月寒（現在の中央付近）の地に開墾のくわを入れたことに始まります。入植後、開拓者たちは、冬の寒さに耐え、長さ三千六百メートルの道路（現在の国道十二号）の両側にわずか半月の間に四十七戸の小屋を建てました。そして、その熱心な働きぶりに感心した開拓使の岩村判官が人々のふるさとの名から「白石村」と命名。これ以後、この土地が「白石」と呼ばれるようになりました。

1

本通・中央

この地域は、開拓時に最初に作った道路（現在の国道十二号）を中心に発展してきました。現在の地名は、その道路を中心に白石神社から望月寒川までの両側の地域を「本通区」、そこから上白石（今の菊水）までを「中央区」としたことに由来しています。本通りは、地域の発展を願った村民の期待の通りでした。

3

平和通

この地域は、かつては本通と呼ばれていた地域で、昭和三十六年に始まった白石神社土地区画整理事業により整備が進められました。国道十二号とJR函館本線の間には、新たな道路も設けられ、地域住民の話し合いにより、「平和通」と命名されました。この名称には、地域の皆さんの平和を願う気持ちが込められており、そのまま現在の地名となりました。

南郷通・北郷

南郷通・北郷は、どちらも地名の由来は明らかになっていませんが、開拓当初についた地名で、本通より南部を「南郷」、北部を「北郷」としたようです。

4 5

菊水・菊水上町・菊水元町

菊水の地名は、明治十九年、京都の公卿・侯爵菊亭脩季が約五十ヘクタールの土地の払い下げを受け、菊亭農場を経営したことに始まります。菊亭侯爵は、唯一、北海道に移住した公卿で、温和な人物として村内の人々にも慕われていました。

当時この地域は、上白石村と呼ばれていましたが、札幌市との合併後の昭和二十九年にこの地域に住んでいた菊亭侯爵にちなみ、菊亭の「菊」と豊平川の「水」から「菊水」と名づけられました。



菊亭脩季

6